

健康長寿に係る先進的な取組事例

吉見町

～骨元気アップ（ロコモティブシンドローム対策）事業～

(1)吉見町の概要

(ア) 吉見町の基本情報

吉見町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、南部は川島町、西部は東松山市、東部は鴻巣市と北本市、北部は熊谷市に接し、都心から 50 km 圏内にある。面積は 38.63 km²、中央部を東西に通る主要地方道東松山鴻巣線は、国道 407 号と国道 17 号を結ぶ幹線道路になっている。荒川、市野川に囲まれた肥沃な土地での稲作、いちご栽培等の農業、大規模工場（三国コカコーラ、東洋製罐、シチズン、自動車部品カルソニックカンセイ等）が盛んである。

また、西部の丘陵地一帯は県立比企丘陵自然公園に指定されており、吉見百穴や八丁湖周辺に点在する黒岩横穴墓群などの古墳時代を代表する史跡や松山城跡など数多くの文化財が残されている。

本町の人口は、平成 10 年前後には比較的安定した増加傾向にあり、平成 14 年をピークにその後は出生数の減少や転入者の減少と転出者の増加により人口は減少傾向が続いている。

① 面積	38.63km ²
② 人口	20,922 人
③ ②のうち 65 歳以上人口（再掲） ※【 】内は高齢化率	4,932 人 【23.6%】

（平成 25 年 4 月 1 日現在。町（丁）字別人口調査）

(イ) 人口分布概要と見込み

吉見町では、現在高齢化率は、県平均と比較してやや高く、65 歳以上の高齢者は 5 人に 1 人程度であり、高齢の夫婦世帯及び一人暮らしの高齢者は急速に増加している。

〔高齢化の状況〕

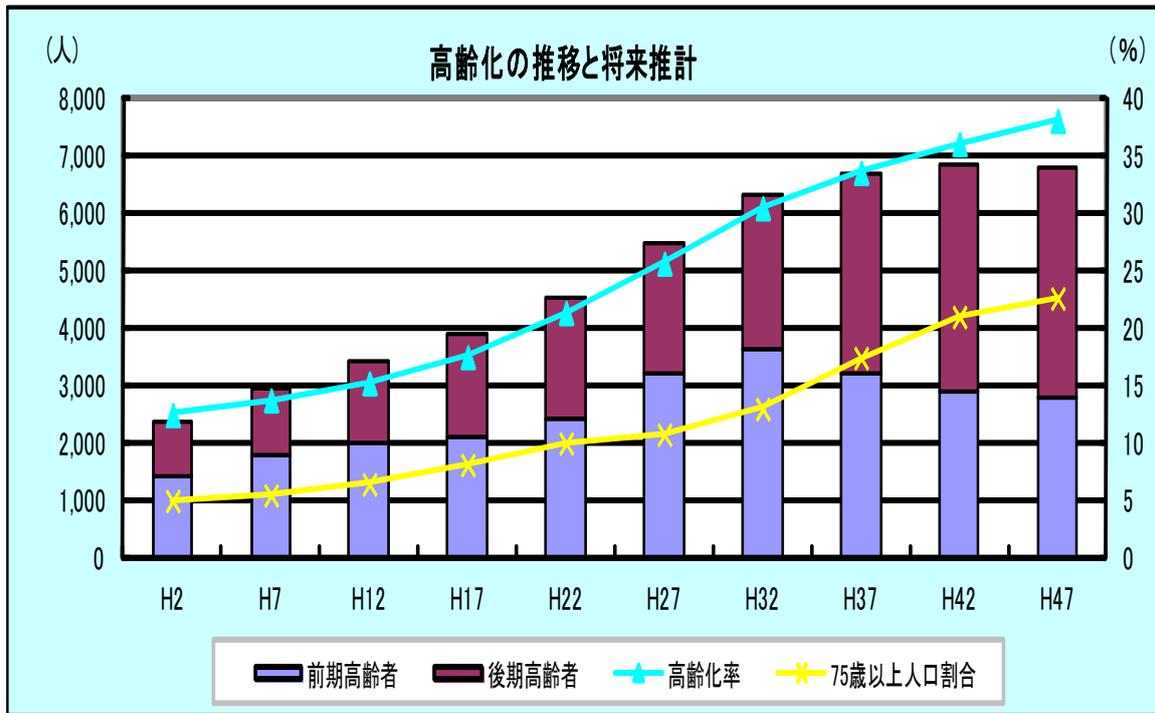
高齢化の推移と将来推計

単位：人

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成47年
	国勢調査人口					将来推計人口			
総人口	18,991	21,371	22,246	22,217	21,079	21,370	20,694	19,896	17,874
高齢化率	12.4%	13.7%	15.1%	17.4%	21.3%	25.6%	30.4%	33.4%	38.0%
高齢者人口 (65歳以上)	2,352	2,920	3,369	3,871	4,482	5,461	6,285	6,655	6,785
前期高齢者 (65～74歳)	1,420	1,767	1,956	2,085	2,392	3,180	3,615	3,206	2,760
後期高齢者 (75歳以上)	932	1,153	1,413	1,786	2,090	2,281	2,670	3,449	4,025

資料：平成22年までは国勢調査

平成27年以降は「日本の市町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」（平成17年国勢調査人口を基準に推計）



吉見町の取組

(ウ) 取組の概要

運動器（筋肉、骨など）障害のため、移動能力が低下して要介護になる可能性の高いロコモティブシンドローム対策として、骨密度測定や測定後の指導を実施した。

(エ) 取組の契機

平成22年度に日本公衆衛生協会が発表した「ぜひ全国の市町村に進めたい取り組み」として全国の7団体の1つとして取り上げられるなど、介護予防事業では一定の成果をあげてきた。更なる効果をあげるため、将来介護を受ける若い方への事業を実施した。

そのため、これまで健康増進法に基づき、40歳から70歳までの5歳刻みの女性に対し実施していた骨密度測定を町民から対象の拡大についての要望などをふまえ、40歳以上の町民を対象として実施した。

(オ) 取組の内容

1. 要綱（吉見町健康診査事業実施要綱）の一部改正（平成25年4月1日）を行い、対象者、検査方法及び自己負担金額の改正を行った。
2. 申請用紙は地域の衛生委員による配布から世帯主宛への郵送に変更した。

町の集団健診（特定健診・各種がん検診）と同時開催することで参加しやすい環境を作った。検査業務は町内にある武蔵丘短期大学（健康スポーツ学・栄養学）を活用し、地域との連携を図った。



当日の受診者は998人（男354人、女644人）、健康増進法での対象者は128人（前年度63人）と約2倍増やすことが出来た。なお骨密度が70%未満の方は252人（受診者の25.3%）であった。

3. 検査の結果、指導が必要な252名を対象とした、「骨元気アップ講座」を7月から毎月1回実施している。（7月から11月までの実績：延べ101人）

(カ) 取組の効果

6月28日から4日間実施した結果、1,157名の方から申込みがあり、998名の方に受診していただいた。（昨年度は105名の申込みで、受診者63名）

各年代や性別ごとの実態を把握することができ、今度の事業展開への大きな財産となった。

骨密度測定が呼び水となって、同日開催したがん検診等の受診者も大幅に伸びる結果にもなった。

(キ) 成功の要因、創意工夫した点

①周知方法の改善

対象者いる世帯主宛に直接、郵送したことで検査について目に触れる可能性が上がった。

②検査時に無料で体力測定を実施

骨密度が終わった方には、検査を委託した武蔵丘短期大学による体力測定を行い、運動機能の判定及び指導を行った。



(ク) 課題、今後の取組

課題

受診者数を増やす（特に40代の方の受診者数）ためにも、周知や内容の見直しをしていく必要がある。

今後の取組

行政だけの取組では、限界もあるため、県が進めている「健康長寿サポーター養成事業」を活用し、民間も活用して健康づくり事業を進めていく。